

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム 丹原の郷
所在地	西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 25 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者一人ひとりに合わせてできることを見つけ、して頂くことで役割を持っていただき『いきいき』と生ずることができる。 ・毎月、様々な行事を計画し、1ヶ月～2ヶ月に1度は外出の機会を作り、季節の花や外食、景色などを楽しんでいただけるように努めている。 ・職員も年齢層が広く、それぞれがその年齢や個性をいかし、多様な接し方ができる。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者と職員は、日々の丁寧なケアが利用者の尊重に繋がると考え、よく理解をして、利用者自身ができることや可能性の発見に努めながら支援している。「利用者の意向に沿う」という基本を大切に、待つ姿勢を持ち支援するよう取り組んでいる。積極的な外出支援を取り入れており、ユニット全体での外出行事のほか、利用者に応じて個別での外出支援の対応もしている。外出が困難な利用者にも外気浴をして気分転換をしてもらったり、毎月の事業所内の季節の飾りつけをする工夫などにより季節を感じられるよう努めている。毎日、職員の手作りの食事が用意されるほか、誕生日会の好みの食事や外食を取り入れたり、移動販売のパンを購入するなど、利用者自身が食べたいものを選択しながら食事に喜びを感じることができるよう支援している。また、食事形態の変更が必要な利用者にも外食が楽しめるよう、すりこ木を持って行き対応することもあり、利用者一人ひとりが楽しみのある暮らしが送れるよう配慮している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 丹原の郷

(ユニット名) 南町

記入者(管理者)
氏名 松木 祐子

評価完了日 26年5月25日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を記入し、見える場所に貼り、共有している。 又、名札の裏にも記入しているが、名札は普段はつけていない為、あまり活用されていないと思われる。	
			(外部評価) 法人の5つの運営理念を分かりやすく表現した「一人一人が穏やかに生き生きと暮らせるように援助する」、「地域の行事に参加しましょう」という事業所独自の理念を作成し、ユニットの入口や居間に掲示している。利用者一人ひとりに寄り添った支援を心がけており、よく理解して利用者自身ができることに着目をしたり可能性の発見に努めたりするなど、管理者と職員は理念を意識した支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 毎年、商店街の七夕祭り・文化祭や運動会などの地域行事に参加させて頂いている。 天気の良い日は外に出て、ホームの近くを通る方と挨拶をしたり、話をしている。	
			(外部評価) 地元の七夕夏まつりには、利用者と一緒に作成した七夕飾りを商店街に出展しており、運営推進会議の参加者や地域住民と会話などを楽しんでいる。近隣住民から声をかけてもらい、民家の軒先に菊の見学に行ったり神輿の訪問があるなど、様々な情報を得て参加するようにしている。また、近隣住民から野菜をもらうこともあり、日頃から交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 施設に見学に来られた方には、いつでも見学して頂いたり、認知症のことやホーム入所について相談を受け付けている。 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、地域の方々やご家族に行事や日常生活の事を話している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、開催している。利用者、家族、包括支援センター、公民館長、民生委員の方々に参加していただき、写真を見ていただき、行事や日常生活を報告し、意見やアドバイスを頂いている。頂いた意見やアドバイスは他のスタッフにも伝え、話し合い、現場に活かせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、老人会長、公民館長、介護相談員、市担当者等の参加を得て開催している。家族には文書で案内するほか電話で出欠確認を行うことで、多くの参加に繋がっている。会議では事業所の活動報告を行い、参加者から意見や感想をもらっている。会議を通して地域住民には、事業所が地域の避難場所として活用できることを伝えており、備蓄品の準備状況や事業所を見学してもらっている。また、民生委員からは近隣の要介護者の相談や情報を得る場合もあり、地域の情報交換の場としても役立っている。</p>	<p>管理者は利用者が潤いのある生活を送れるよう、読書や習字、生け花などの活動を充実させて、サークルのような活動を実践していきたいと考えている。そのため、運営推進会議や地域との繋がりなどを活用して、より多くの地域住民やボランティアの方などに協力してもらい、活動が実現できることを期待したい。</p>
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 管理者が行っている。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらっている。分からないことがある場合は、管理者が市窓口に向いたり電話で気軽に相談する関係を築いている。毎月介護相談員2名の訪問があり、利用者の話しをよく聞いてくれ喜ばれている。また、年2～3回、介護相談員の連絡会があり、管理者は参加協力をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日常的に身体拘束はない。日中はユニット出入り口や窓は施錠せず、自由に出入りできるようになっている。又、身体拘束などについても、研修に参加するなどし、施設内でも職員で勉強会を行い、周知徹底している。</p> <p>(外部評価) 日頃から主任と副主任を中心に身体拘束をしないケアの意識を高く持っており、身体拘束等の勉強会を開催するほかに、ユニット内での職員への指導や教育に力を入れている。拘束の恐れなどの課題がある場合はユニット会で話し合っ意見を出し合い、職員間で気になることは注意し合っている。職員は利用者が自由な生活が送れるよう、安全面にも配慮しながら見守りを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修に参加し、高齢者の虐待防止について学んでいる。また、当施設内における勉強会でも学ぶ機会を持ち、理解を深めていくよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を設けている。主に管理者が対応し、支援について話し合うことが多く、介護職員が対応することがない為、職員の理解は低いと思われる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 二ヶ月に一度運営推進会議を行っている。毎月ご家族には日常生活報告書を郵送し、利用者へ様子を伝えている。また、面会時には、日々の様子を報告し、職員とゆっくり話せる環境作りに努めている。 介護相談員が毎月訪問していただき、利用者の声を聞いていただき、施設に報告してくれている。 (外部評価) 前回は行った外部評価の「期待したい内容」から、家族からより意見を引き出せるようアンケート調査を実施している。アンケートに「利用者に希望を聞いてほしい」という意見が出され、管理者は利用者の意向に沿う支援の大切さを再認識し、サービスの向上に繋げている。クリスマス会や敬老会、バイキング形式での食事会を開催する場合には家族にも声をかけ、事業所での利用者の生活の様子を知ってもらえるよう努めている。また、家族から訪問時に意見を聞くように努め、利用者からは日々の生活の中で意見を聞き、上層部にも意向が伝わるよう努め対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 勉強会、ユニット会・ケアカンファレンス、朝・夕の申し送り時に意見や提案ができるようにしている。また、管理者から常日頃、職員に話しかけ、話をするなど、意見や提案を言い出しやすい環境ができています。 (外部評価) 管理者は年2回職員との個別面談を実施しており、職員が立てた目標の達成状況などの確認をしている。また、管理者は職員の意見を聞くよう努めており、相談しやすい関係を築きたいと考え、何かあった場合は声をかけるよう伝えている。職員から出された意見は、調整をしながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年一回、会社の総会が開催され、資格取得者には表彰や報奨金を授与している。休憩室を設け、飲料水の自動販売機も設置し、一息できる場所を設けている。 各自が目標設定シートを作成し、達成に向けて努力している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修会になるべく多くの職員が参加し、受講するよう呼びかけている。受講後は、研修報告書を提出し、勉強会において発表し、職員間で共有している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 毎月、主任・副主任会を実施し、サービスの質の向上に努めている。他の施設と相互研修を通じて意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 困っていること、不安なこと、要望などに対してできる事を実行し、できないと思われる事からも、逃げないように方法を考えていくように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に施設長とケアマネージャーと家族とで話し合い、家族・本人の不安なこと、要望などを詳しく聞いている。入居後も職員が本人・家族の意見・要望を聞いている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用者、家族、職員、ケアマネージャーと話し合い、今必要とされている支援は何かを見極めるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の入居前の暮らしや、生活の様子を把握して、家事仕事などできる事をしていただき、レクリエーションも職員と一緒にやっている。不安な時には、ゆっくりと話を聞いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 毎月一回、書面にて家族に利用者の様子を知らせ、面会時には様子を伝えている。体調の変化があれば、家族に電話連絡をしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の七夕祭り・運動会などに参加しており、地方祭の時は、何台もの神輿や太鼓台が訪問してくださっている。事業所内で知り合いの方と話す事ができるようにしている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、近隣住民や友人の訪問があり、職員は快く対応をしている。教会の礼拝やお墓参り、外食など、家族や近隣住民、ボランティア等の協力を得ながら馴染みの場所に出かけられるよう支援している。日頃から会話を楽しむ利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) なるべく、テーブル席には、気の合う同士になるように考えたり、外出の時の車の乗り合わせなども考えている。食事の時、職員も一緒にテーブルで楽しく会話し利用者同士の関係がよくなるように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族の方からの相談に応じたり、入院された方のお見舞いに行ったり、継続的な付き合いができるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常的に昔の話や季節の話などを職員から話かけるなどし、会話の中から希望や意向をくみ取るよう努めている。また、利用者様の視点にたって話し合い、意見を出し合い、日々の関わりの中で把握に努めている。 (外部評価) 日々の会話の中で、利用者の思いや意向を把握するよう努めており、職員は意向を反映して利用者が選択できるような声かけをしている。思いの把握が困難な利用者には、家族から情報を得て職員間で話し合いながら支援しており、利用者の表情を見て再度検討し、より良いサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに気を配りながら、家族や本人より生活の様子を詳しく聞きとるようにしている。また、生活歴のシートを記録し、職員で共有できるようにしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) できる可能性があることは、声掛けし、まずしていただき、様子を観ながら、利用者一人ひとりのできる事は何かを話し合い、支援している。 食事、水分量、排泄チェック、バイタル測定をし、体調の変化を把握している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族の要望を取り入れながら、三ヶ月ごとにケアカンファレンスを行い、プランを見直ししながら、計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。月1回、利用者毎の担当職員は介護計画を振り返りながら意見交換を行い、管理者と計画作成担当者に確認し、必要に応じて介護計画の見直しをしている。また、職員は利用者自身ができることや可能性に着目し、随時計画に追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し、身体状況、食事、水分摂取量、排泄等の日々の暮らしの様子を記録している。勤務開始前には全職員、記録を読む事を義務づけている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の状況に応じて、病院受診・買い物等の支援は柔軟に行っている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 二ヶ月に一度、利用者が安心して地域での暮らしが続けられるように地域の方、民生委員の方々と意見交換する機会を設けている。毎月、歌や踊りのボランティアの方々が訪問してくださる。デイサービスで行われる生花や習字に参加している。消防署指導のもとで、避難訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 一ヶ月に一度、往診がある。家族が希望する今までのかかり つけ医や医療機関にての受診や通院の支援をしている。家族 が同行できない場合は職員が代行する場合がある。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。対応可能な医療機関には職員が受診介助をして おり、家族の協力を得てリハビリや受診をしている利用者も いる。月1回、母体の関連病院から往診があり利用者の健康 管理を行うほか、相談ごとにも対応している。往診や受診の 状況、薬の変更など、家族へ報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者の状態変化に応じ、看護師に相談し、指示を仰いでい る。 施設の看護師である施設長とは、24時間連絡がとれる体制を とっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には本人の普段の状況や特徴、支援方法に関する情報 を医療機関に提供している。職員は見舞いに行くようにして いるが、主に施設長が病院や家族と連携をとっている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人や家族の意向を踏まえて医師との連携をとりながら、家 族と話し合いを行っている。状態が悪化した場合はすぐに対 応できるよう協力医療機関と連携をとっている。	
			(外部評価) 事業所では終末期の支援を行っていないため、緊急時には救 急搬送する方針であることを入居時に利用者や家族に説明し 同意を得ている。終末期の支援を行うためには、管理者は看 護師の配置と職員のスキルアップ、医療機関や訪問看護等と の連携が必要であると考えており、研修会に積極的に参加し 今後の支援のあり方を模索している。	重度化や終末期の支援を行うためには、職員全員の教 育や理解を深めることが必要となるため、勉強会の実 施や外部研修等へ参加することが望まれる。また、医 療機関との連携が必要不可欠であるため、必要な医療 連携体制の整備を着実に進めていくことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会や救命救急の講習会を行っている。 緊急対応については、マニュアルがある。心肺蘇生法やAEDなどの使い方を年1回以上は行い、職員が参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、春と秋には火災を想定した避難訓練を行う。年1回は消防署の協力・指導のもとで消火訓練を行っている。毎年、9月には水害を想定した避難訓練を行っている。地域の方々に避難訓練の案内状を送付し、地域の方が避難訓練の応援に来てくださる事もある。 (外部評価) 年2回火災を想定した避難訓練のほか、年1回水害を想定した訓練も実施している。運営推進会議への参加者や地域の消防団長にも事業所の状況を伝え、災害時の協力をお願いしている。実際に訓練では利用者全員が事業所の外に避難させ、避難した利用者は地域住民に避難援助を行ってもらう手順で、地域と連携した訓練をしている。地震発生時には、耐震構造のある事業所に利用者は待機する方針であることを、市担当課や家族にも説明している。また、災害時に備え、1週間分の食糧などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人の名前を呼んでいる。「おじいちゃん」「おばあちゃん」などと呼ばない。トイレ誘導など周囲に聞こえないよう声掛けに配慮している。 ご家族であっても、主介護者以外の方には、プライバシーに関することは話さないようにしている。 (外部評価) 職員は利用者が目上の方であることを認識して尊重し、職員自身が利用者だったらどう感じるかを考え、職員会等で話し合いをしている。調査当日は、職員が利用者に丁寧な声かけをする様子が伺えた。着替えや排泄時などの羞恥心に配慮し、職員同士で気になることは注意し合っている。また、利用者個人のファイルは施錠できる棚に保管し、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常的な利用者との会話の中から、思いや希望を聞き取るようにしている。できる方には、入浴後にどの洋服を着るかを一緒に選ぶようにしたり、何か食べたい物や好きな物があれば、誕生日会やおやつ作りのメニューに加えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者の方から「何かする事はある？」と言われた時は選択肢を作り選んでもらっている。他、レクリエーションを行い、他者との交流が持てるように配慮している。「疲れてしんどい」と言われる時は1時間ほど居室で休んでいただくようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 食事の後の口元の汚れや洋服の汚れなどには気をつけている。汚れている場合は声掛けし、衣類を交換している。入浴後や離床時など、ボタンがとれている、ズボンが下がっている場合はご自分で直せる方には直していただくようにしている。衣類も利用者の着たい物を着ていただくようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者さんの誕生日の時には、リクエストに応じて昼食のメニューを考えている。食材の下準備や盛り付けなど声掛けをし、積極的にして頂いている。定期的におやつ作りをしている。下膳もカゴを準備し、食器を入れてもらい、カウンターまで運んでいただく。 (外部評価) 管理者が献立を作成し、職員は産直市等で食材を購入し調理している。食器などの準備をしたり、職員と一緒に食材を切ったりするなど、利用者のできることを手伝いをしてもらっている。誕生日には利用者の好みのもを用意し、手作りケーキをプレゼントして喜ばれている。利用者の使い馴れたお茶碗や箸を使用して、利用者のペースで食べれるよう配慮している。また、食事を楽しむことができるよう、外食をしたりパンの移動販売を購入するなど、利用者を選択できる喜びも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分は1日に1000～1500ccは摂取していただくようにしている。食事は少なめによそう方、ミキサー食の方と考えて分けて作っている。バイタル表に毎回の食事量・水分量を記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声掛けをし、口腔ケアを行っている。介助する方は職員が付き添い行っている。洗い残しがあれば、職員が洗うようにしている。入眠前は義歯を外している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターンを記録し、把握に努めている。日中、長時間トイレに行かれない方は2～3時間に1度、声掛けや誘導をしている。夜間自分で起きられない方は2～4時間に1度声掛け誘導し、自分で起きられる方は見守りや介助を行っている。	
			(外部評価) 排泄パターンを記録して職員間で共有し、トイレで排泄できるよう支援している。管理者は、排便状況が利用者の気分や体調の変化などに影響していると考えており、職員にも考察してもらいながらスムーズな排泄が行えるよう、センナ茶を飲んでもらったりヨーグルトを食事に取り入れるなどの対応をしている。また、便秘など続く場合は、医師と相談をして緩下剤の調整や対応をしながら快適に排便できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分を十分に取っていただき、朝食にヨーグルト、バナナ、とろろ昆布を毎日食べて頂いている。なおかつ、排便がない方には緩下剤を服用していただくこともある。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴を嫌がられる場合はゆっくりと話をし、気持ちよく入っていただけるよう、職員間で協力している。毎日、入浴したい方は希望にそうように努力している。歩行できない方には、シャワーキャリーを使用し、シャワー浴・足浴も行っている。	
			(外部評価) 2日に1回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴することもできる。職員は、利用者気持ちよく入浴してもらえるよう、声かけを工夫する等一人ひとりに合わせた支援をしている。入浴が苦手な利用者には、職員の交代や時間を代えて声かけをしたり、職員と一緒に脱衣して一緒に入浴したりしている。また、浴槽をまたぐことができなくなった利用者には、家族と相談のうねシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入眠しやすいように寝る前にはホットミルクを飲んでいただく。眠れない方には、リビングにて職員と話をしたり、居室で過ごされている場合には頻回に訪室し、見守りをおこなっている。週に1度はシーツ交換を行い、天気の良い日には布団を干したりする。静かな環境になるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬表を読んで、職員一人ひとりが理解するようにしている。服用時は職員2名にてダブルチェックを必ず行い、本人に手渡し、または介助にて服用していただく。飲み込むまで見届けるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常家事仕事（食材切り、洗濯物ほし・たたみ、お盆拭き等）利用者の方々に合わせて行ってもらっている。外気浴・散歩・廊下歩行、体操などは毎日行う。月に2～3回はユニット内での行事としておやつ作りや外出・外食を行っている。また、ダイルームでのボランティアの慰問、習字や生花教室に参加している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 地域の年間行事にはできるだけ参加するようにしている。計画を立てて、外食や外出を行い、また足湯等にも出掛けている。外に出たい時は職員が付き添い、散歩をすることもある。家族の希望があれば、自宅に行く支援もしている。 (外部評価) 天気の良い日には玄関先で外気浴をしたり散歩に出かけている。併設のデイサービスから外出先などの情報をもらったり、日々の会話の中で聞いた懐かしい場所などへ出かけるよう支援している。また、ユニット毎に年間の外出計画を立て、花見や足湯、喫茶店などに外出できるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。調査当日は、ユニット毎に玄関先に利用者が出て、歌を歌ったり飼い犬と一緒に散歩に行く様子が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 基本的に利用者の方はお金の持ち込みはおこなっていない。必要であれば、立替金として処理し、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人の希望があれば、家族に電話をかけたりにしている。電話がかかってきた時には取り次いでいる。手紙を書かれた場合は住所を確認し、職員が投函している。年賀状は職員と一緒に作成し、出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花などを飾り、季節感を出すようにしている。壁面にも季節の行事に関する作品を飾るようにしている。行事の写真も掲示している。	
			(外部評価) リビングの壁面には季節の作品を飾り、毎月貼り換えて事業所内においても季節が分かるようにしている。また、ユニット毎に花や似顔絵を飾ったりする工夫をしている。和室もあり、利用者が自由にくつろぐことができるよう整理整頓されている。清掃は職員が行っているが、利用者と一緒に掃除機をかけることもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下にソファを配置し、レクリエーションを一緒に行ったり、歌を歌ったりするようにしている。また、気のあう方と二人がけのソファでゆっくりと話しができるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に本人が使い慣れている家具を持参していただけるようにしている。コルクボードにご家族との写真や作った作品を貼るようにしている。	
			(外部評価) 居室はベッドとエアコンが備え付けのほか、自宅から使い馴れたものを持ち込むことができ、タンスやソファ、いす、観葉植物など思い思いのものを持ち込んでいる。居室には家族の大きく引き伸ばした写真やプレゼントの絵などが飾られており、利用者や家族の思いが伝わる落ち着いた空間となっている。また、入口には手づくりの表札が掛けられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 自室ごとに表札を作成し、かけている。各自、確認できる方は表札を見て確認している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600750
法人名	徳式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム 丹原の郷
所在地	西条市丹原長池田1267-1
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ホーム内の行事だけでなく、地域の農園に果物狩りに出掛け、収穫を楽しんでいる。また、夏には丹原商店街の七夕祭りに七夕飾りを作り、展示している。</p> <p>・日常生活では食材の下準備や下膳、洗濯物干しや洗濯物たたみ等、自分のできることは継続して行ってもらうように支援している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者と職員は、日々の丁寧なケアが利用者の尊重に繋がると考え、よく理解をして、利用者自身ができることや可能性の発見に努めながら支援している。「利用者の意向に沿う」という基本を大切に、待つ姿勢を持ち支援するよう取り組んでいる。積極的な外出支援を取り入れており、ユニット全体での外出行事のほか、利用者に応じて個別での外出支援の対応もしている。外出が困難な利用者にも外気浴をして気分転換をしてもらったり、毎月の事業所内の季節の飾りつけをする工夫などにより季節を感じられるよう努めている。毎日、職員の手作りの食事が用意されるほか、誕生日会の好みの食事や外食を取り入れたり、移動販売のパンを購入するなど、利用者自身が食べたいものを選択しながら食事に喜びを感じることができるよう支援している。また、食事形態の変更が必要な利用者にも外食が楽しめるよう、すりこ木を持って行き対応することもあり、利用者一人ひとりが楽しみのある暮らしが送れるよう配慮している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 丹原の郷

(ユニット名) 北町

記入者(管理者)
氏名 松木 祐子

評価完了日 26年5月29日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 掲示や名札の裏に記載しており、日々実践できるように努めている。	
			(外部評価) 法人の5つの運営理念を分かりやすく表現した「一人一人が穏やかに生き生きと暮らせるように援助する」、「地域の行事に参加しましょう」という事業所独自の理念を作成し、ユニットの入口や居間に掲示している。利用者一人ひとりに寄り添った支援を心がけており、よく理解して利用者自身ができることに着目をしたり可能性の発見に努めたりするなど、管理者と職員は理念を意識した支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の七夕祭りに笹飾りを出品し、見物に行くようにしている。秋祭りや運動会にも参加し、地域の方々と交流を持つようにしている。	
			(外部評価) 地元の七夕夏まつりには、利用者と一緒に作成した七夕飾りを商店街に出展しており、運営推進会議の参加者や地域住民と会話などを楽しんでいる。近隣住民から声をかけてもらい、民家の軒先に菊の見学に行ったり神輿の訪問があるなど、様々な情報を得て参加するようにしている。また、近隣住民から野菜をもらうこともあり、日頃から交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域の方々から介護相談を受けている。デイサービス事業が併設されているので、地域の方々の相談窓口になっている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、家族。地区の公民館長、民生委員、市役所の方々、また利用者の方にも交代で参加していただいている。行事の写真なども利用し、報告している。家族や地域の方々から意見を伺い、サービスの向上に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、老人会長、公民館長、介護相談員、市担当者等の参加を得て開催している。家族には文書で案内するほか電話で出欠確認を行うことで、多くの参加に繋がっている。会議では事業所の活動報告を行い、参加者から意見や感想をもらっている。会議を通して地域住民には、事業所が地域の避難場所として活用できることを伝えており、備蓄品の準備状況や事業所を見学してもらっている。また、民生委員からは近隣の要介護者の相談や情報を得る場合もあり、地域の情報交換の場としても役立っている。</p>	管理者は利用者が潤いのある生活を送れるよう、読書や習字、生け花などの活動を充実させて、サークルのような活動を実践していきたいと考えている。そのため、運営推進会議や地域との繋がりなどを活用して、より多くの地域住民やボランティアの方などに協力してもらい、活動が実現できることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 管理者が対応している。市担当者と情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知らせてもらっている。分からないことがある場合は、管理者が市窓口に出向いたり電話で気軽に相談する関係を築いている。毎月介護相談員2名の訪問があり、利用者の話しをよく聞いてくれ喜ばれている。また、年2～3回、介護相談員の連絡会があり、管理者は参加協力をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 日常的に身体拘束は行わない。日中は利用者の状態や希望に応じて、散歩・外気浴・草引き・野菜の収穫などを行っている。身体拘束の研修に参加したり、勉強会で話し合うなどし、理解を深めている。</p> <p>(外部評価) 日頃から主任と副主任を中心に身体拘束をしないケアの意識を高く持っており、身体拘束等の勉強会を開催するほかに、ユニット内での職員への指導や教育に力を入れている。拘束の恐れなどの課題がある場合はユニット会で話し合って意見を出し合い、職員間で気になることは注意し合っている。職員は利用者が自由な生活が送れるよう、安全面にも配慮しながら見守りを行っている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 朝・夕の申し送りの時などに話し合っている。定期的な勉強会にて高齢者虐待について話し合い、学ぶ機会を持っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、勉強会を開催し理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を開き、市職員や民生委員、家族、利用者と一緒に話す機会を持っている。 (外部評価) 前回は行った外部評価の「期待したい内容」から、家族からより意見を引き出せるようアンケート調査を実施している。アンケートに「利用者に希望を聞いてほしい」という意見が出され、管理者は利用者の意向に沿う支援の大切さを再認識し、サービスの向上に繋げている。クリスマス会や敬老会、バイキング形式での食事会を開催する場合には家族にも声をかけ、事業所での利用者の生活の様子を知ってもらえるよう努めている。また、家族から訪問時に意見を聞くように努め、利用者からは日々の生活の中で意見を聞き、上層部にも意向が伝わるよう努め対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 年2回 管理者が職員と目標設定シートを活用し、個別に面談する機会を持っている。 勉強会や全体会・申し送り等で意見を述べている。	
			(外部評価) 管理者は年2回職員との個別面談を実施しており、職員が立てた目標の達成状況などの確認をしている。また、管理者は職員の意見を聞くよう努めており、相談しやすい関係を築きたいと考え、何かあった場合は声をかけるよう伝えている。 職員から出された意見は、調整をしながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 年1回、会社の社員総会が開催されている。職員の資格取得を支援し、勉強会も開催している。資格を取得した職員には、総会にて表彰や報奨金を授与している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月1回勉強会を行っている。内容は職員から希望を聞き、年間の予定を立てている。施設外の研修にも、希望者が参加できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域密着型サービス協会の東予地区の研修に参加している。同じ法人内のグループホームと、主任会等を通じて情報交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 主に管理者が入居前より本人・家族より情報を収集し、馴染みの関係作りに努めている。併設のデイサービスを利用するなどホームに慣れていただけるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者が対応しており、家族からの相談を受け、意見や要望を聞いている。家族の気持ちや家族状況を職員に伝えて良い関係作りができるように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族から話を聞き、困っている事や緊急性などを勘案して、改善に向けた支援を提案している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活しているその場、その時々で一緒に感じあえるように努めている。漬物の漬け方、野菜の下ごしらえの方法等を教えてもらい、感謝や労いの気持ちを伝えている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の方には利用者の日々の様子を伝え、どのような関わり方をすると利用者がより生き生き暮らせるかを話し合い、協力しあえる関係づくりに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の敬老会に参加を希望される方には、ご家族の了解のもと、参加していただくようにしている。また、教会へ礼拝に行く方へは一緒に行ってくださいの方が、毎回迎えに来てくれる。併設のデイサービスの方が来られる時は、話ができるように支援している。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、近隣住民や友人の訪問があり、職員は快く対応をしている。教会の礼拝やお墓参り、外食など、家族や近隣住民、ボランティア等の協力を得ながら馴染みの場所に出かけられるよう支援している。日頃から会話を楽しむ利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の席は利用者同士が関わりを持てるように考え、定期的に席を替えている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院された方がいれば、お見舞いに行ったりして、関係が継続できるように努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の暮らしの中から、思いや希望を聞いて、一人ひとりの思いを把握できるように、職員間で話し合っている。また声掛けをしたり、表情からも本人の思いをくみ取るように努めている。	
			(外部評価) 日々の会話の中で、利用者の思いや意向を把握するよう努めており、職員は意向を反映して利用者が選択できるような声かけをしている。思いの把握が困難な利用者には、家族から情報を得て職員間で話し合いながら支援しており、利用者の表情を見て再度検討し、より良いサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族や利用者の方から生活環境・暮らし方を聞いている。また、普段の会話の中からも情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日、その時の様子がわかるように記録している。体調や精神面でいつもと違うところを注意し、申し送りをするようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者・家族の方から思いや意見を聞き、毎日の生活の中から得た情報をもとに話し合い、介護計画の見直し、検討し作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。月1回、利用者毎の担当職員は介護計画を振り返りながら意見交換を行い、管理者と計画作成担当者に確認し、必要に応じて介護計画の見直しをしている。また、職員は利用者自身ができることや可能性に着目し、随時計画に追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々、利用者の様子や発言、ケアの内容等を具体的に記録している。利用者の変化に気づいたことは、申し送りを活用し、職員間で情報の共有ができるよう努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通所介護を行い、利用者や家族の要望に沿ったサービスを行っている。病院受診や買い物など、必要な支援は家族と相談して、対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 歌や踊りのボランティアが定期的に来訪し、利用者の方も楽しみにしている。また、地域の運動会にも出掛けている。消防署の協力のもと年2回の消防避難訓練、年1回水害避難訓練を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人や家族と話し合い、希望する病院を受診できるように支 援している。グループ内に医療機関の医師が主治医となっ ている方が多く、月1回の定期的な往診を受けている。近隣の 歯科なども協力してくれている。	
			(外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。対応可能な医療機関には職員が受診介助をして おり、家族の協力を得てリハビリや受診をしている利用者も いる。月1回、母体の関連病院から往診があり利用者の健康 管理を行うほか、相談ごとにも対応している。往診や受診の 状況、薬の変更など、家族へ報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護師を配置しており、利用者の健康状態を知っていて、体 調不良などの時には相談でき、適切に対応できている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時に利用者の普段の状況や支援方法に関する情報を医療 機関に提供している。主に管理者が家族・医師と相談しなが ら、早期退院にむけての話し合いを行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 管理者が早い段階から本人、家族、協力医療機関の医師と話 し合い、意向を聞き連携をとっている。また、体調に変化が 見られた時などに話し合いを行っている。	
			(外部評価) 事業所では終末期の支援を行っていないため、緊急時には救 急搬送する方針であることを入居時に利用者や家族に説明し 同意を得ている。終末期の支援を行うためには、管理者は看 護師の配置と職員のスキルアップ、医療機関や訪問看護等 との連携が必要であると考えており、研修会に積極的に参加し 今後の支援のあり方を模索している。	重度化や終末期の支援を行うためには、職員全員の教 育や理解を深めることが必要となるため、勉強会の実 施や外部研修等へ参加することが望まれる。また、医 療機関との連携が必要不可欠であるため、必要な医療 連携体制の整備を着実に進めていくことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成している。消防署の協力を得て、応急手当や初期対応の研修、訓練を行っている。また、実演を交えて学習している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署、近隣の方たちの協力を得て、避難訓練・避難経路の確認、消火器の使用方法などの訓練を定期的に行っている。また、運営推進会議においても、協力を依頼している。 (外部評価) 年2回火災を想定した避難訓練のほか、年1回水害を想定した訓練も実施している。運営推進会議への参加者や地域の消防団長にも事業所の状況を伝え、災害時の協力をお願いしている。実際に訓練では利用者全員が事業所の外に避難させ、避難した利用者は地域住民に避難援助を行ってもらおう手順で、地域と連携した訓練をしている。地震発生時には、耐震構造のある事業所に利用者は待機する方針であることを、市担当課や家族にも説明している。また、災害時に備え、1週間分の食糧などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 言葉使いには十分に注意し、利用者を傷つけないように努めている。更衣・排泄・入浴などさりげない声掛けを心がけている。主介護者以外にはプライバシーに関することは絶対に話さない。 (外部評価) 職員は利用者が目上の方であることを認識して尊重し、職員自身が利用者だったらどう感じるかを考え、職員会等で話し合いをしている。調査当日は、職員が利用者に丁寧な声かけをする様子が見えた。着替えや排泄時などの羞恥心に配慮し、職員同士で気になることは注意し合っている。また、利用者個人のファイルは施錠できる棚に保管し、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 自ら希望の表出ができない方には、複数の選択肢の中から選んでいただくようにしている。本人の気持ちを理解するように努め、利用者の方が納得しながら暮らせるように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者への声掛けを密に行い、ちょっとした言動も見逃さないようにして対応している。その時の本人の気持ちを大切にしたい支援をしている。散歩などの距離も個々のペースに合わせている。家族や面会者との会話などからも、本人の気持ちをくみ取りようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者との会話やご家族との会話の中から、その人らしさを見出して支援している。散髪の希望があれば理美容師（有償ボランティア）に来てもらって、自分の好みの髪型にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜を切ったり、食事の下ごしらえ、盛り付けをするなど利用者それぞれが自分のできることを皆で助けあっている。職員は同じテーブルで食事をとっている。 (外部評価) 管理者が献立を作成し、職員は産直市等で食材を購入し調理している。食器などの準備をしたり、職員と一緒に食材を切ったりするなど、利用者のできることを手伝いをしてもらっている。誕生日には利用者の好みのもので用意し、手作りケーキをプレゼントして喜ばれている。利用者の使い馴れたお茶碗や箸を使用して、利用者のペースで食べられるよう配慮している。また、食事を楽しむことができるよう、外食をしたりパンの移動販売を購入するなど、利用者を選択できる喜びも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 献立表にそって食事作りをしている。利用者の好みも取り入れて食べやすい物を工夫している。また、水分量、食事量をチェックし、記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後の口腔ケアと週2回の義歯の洗浄剤を用いての消毒を行っている。利用者一人ひとりの力に応じた口腔ケアの介助を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄記録をつけ、時間や習慣を把握し、トイレへお誘いすることで、トイレでの排泄を促している。	
			(外部評価) 排泄パターンを記録して職員間で共有し、トイレで排泄できるよう支援している。管理者は、排便状況が利用者の気分や体調の変化などに影響していると考えており、職員にも考察してもらいながらスムーズな排泄が行えるよう、センナ茶を飲んでもらったりヨーグルトを食事に取り入れるなどの対応をしている。また、便秘など続く場合は、医師と相談をして緩下剤の調整や対応をしながら快適に排便できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者の排便状態を把握し、ヨーグルト、センナ茶を飲んで頂いている。廊下歩行、散歩、体操など体を動かす事を取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者に合わせて声掛けや希望を確認し、入浴していただいている。体調に合わせて（発熱等）入浴を控える場合もある。	
			(外部評価) 2日に1回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴することもできる。職員は、利用者気持ちよく入浴してもらえるよう、声かけを工夫する等一人ひとりに合わせた支援をしている。入浴が苦手な利用者には、職員の交代や時間を代えて声かけをしたり、職員と一緒に脱衣して一緒に入浴したりしている。また、浴槽をまたぐことができなくなった利用者には、家族と相談のうえシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はリビングで過ごしたり、利用者同士でソファなどで談話し、くつろいでいる。入眠前には音楽を聞き、リラックスできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬ファイルを作成し、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡し、又は介助し服薬できているか確認している。薬の処方や容量が変更されたり、状態に変化が見られる時はいつもより詳細に記録している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事作り、壁画作り、干し柿作りなど利用者の経験や知恵を発揮する場面を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節ごとの花見に出掛けたりする事で季節を肌で感じてもらう心身の活性化ができるよう、また日常的にも散歩や外気浴をし、気分転換できるように支援している。ドライブの時はお弁当を準備し、戸外で食べる楽しみを感じていただいている。 (外部評価) 天気の良い日には玄関先で外気浴をしたり散歩に出かけている。併設のデイサービスから外出先などの情報をもらったり、日々の会話の中で聞いた懐かしい場所などへ出かけるよう支援している。また、ユニット毎に年間の外出計画を立て、花見や足湯、喫茶店などに外出できるように支援しており、利用者は楽しみにしている。調査当日は、ユニット毎に玄関先に利用者が出て、歌を歌ったり飼い犬と一緒に散歩に行く様子が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設内でお金を使う機会はパン屋さんが来た時くらいである。個別に必要な時は立替・支払いを行っている。個人のお金や財布は事務所の金庫で預かり、必要な時は渡すようにしている。現金は本人・家族納得のうえで管理している。買い物の際は見守りを行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたいという利用者の方には、かけていただいている。また、定期的にかかってくる方もいるので、ゆっくりと話していただけるようにしている。年賀状は職員の支援のもとで、毎年出している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 季節の花を飾ったり、壁面の飾りは毎月替えている。居心地のよい空間作りをしている。</p> <p>(外部評価) リビングの壁面には季節の作品を飾り、毎月貼り換えて事業所内においても季節が分かるようにしている。また、ユニット毎に花や似顔絵を飾ったりする工夫をしている。和室もあり、利用者が自由にくつろぐことができるよう整理整頓されている。清掃は職員が行っているが、利用者と一緒に掃除機をかけることもある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 日当たりのよい所にソファを置き、戸外に椅子やテーブルを置きくつろげるスペースを設けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使っていた家具を使ったり、家族からのハガキや写真を貼っている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドとエアコンが備え付けのほか、自宅から使い馴れたものを持ち込むことができ、タンスやソファ、いす、観葉植物など思い思いのものを持ち込んでいる。居室には家族の大きく引き伸ばした写真やプレゼントの絵などが飾られており、利用者や家族の思いが伝わる落ち着いた空間となっている。また、入口には手づくりの表札が掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) テレビの上に目くりを作り、利用者がめくれるようにしている。自室には表札を作っている。トイレや浴室にはわかるように表示している。</p>	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870600750
法人名	株式会社 ジェイコム
事業所名	グループホーム 丹原の郷
所在地	西条市丹原町池田1267-1
自己評価作成日	平成 26 年 5 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 26 年 6 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・季節ごとに行事を行い四季を味わっていただいている。
 ・また、行事のみでなく、天気の良い日には施設の庭に出て、散歩を行ったり、外気浴を行っている。
 ・外に出れない日は室内にて廊下歩行や体を動かすレクリエーションを行っている。季節を感じるとともに、日々の天気の変化も感じてほしいと思ひながら、支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員は、日々の丁寧なケアが利用者の尊重に繋がると考え、よく理解をして、利用者自身ができることや可能性の発見に努めながら支援している。「利用者の意向に沿う」という基本を大切に、待つ姿勢を持ち支援するよう取り組んでいる。積極的な外出支援を取り入れており、ユニット全体での外出行事のほか、利用者に応じて個別での外出支援の対応もしている。外出が困難な利用者にも外気浴をして気分転換をしてもらったり、毎月の事業所内の季節の飾りつけをする工夫などにより季節を感じられるよう努めている。毎日、職員の手作りの食事が用意されるほか、誕生日会の好みの食事や外食を取り入れたり、移動販売のパンを購入するなど、利用者自身が食べたいものを選択しながら食事に喜びを感じることができるよう支援している。また、食事形態の変更が必要な利用者にも外食が楽しめるよう、すりこ木を持って行き対応することもあり、利用者一人ひとりが楽しみのある暮らしが送れるよう配慮している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I. 理念に基づく運営

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 丹原の郷

(ユニット名) 上町

記入者(管理者)
氏名 松木 祐子

評価完了日 26年5月30日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 運営理念を張り出している。 職員の名札の裏にも印刷しており、いつでも確認できるようにしている。	
			(外部評価) 法人の5つの運営理念を分かりやすく表現した「一人一人が穏やかに生き生きと暮らせるように援助する」、「地域の行事に参加しましょう」という事業所独自の理念を作成し、ユニットの入口や居間に掲示している。利用者一人ひとりに寄り添った支援を心がけており、よく理解して利用者自身ができることに着目をしたり可能性の発見に努めたりするなど、管理者と職員は理念を意識した支援に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 丹原七夕祭りには七夕飾りをデイサービスと協力して制作し出品している。展示期間には、見学に出かけている。秋にはお神輿や獅子舞が来所してくれる。毎月、地域のボランティアが慰問に来てくれ、歌や踊りを見せてくれている。	
			(外部評価) 地元の七夕夏まつりには、利用者と一緒に作成した七夕飾りを商店街に出展しており、運営推進会議の参加者や地域住民と会話などを楽しんでいる。近隣住民から声をかけてもらい、民家の軒先に菊の見学に行ったり神輿の訪問があるなど、様々な情報を得て参加するようにしている。また、近隣住民から野菜をもらうこともあり、日頃から交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) デイサービス事業所を併設しており、またグループホーム内でも共用型のデイサービスを行い、利用者の受け入れを行っている。窓口を広く開放し、見学者にも丁寧な説明を心がけている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<p>(自己評価) 利用者代表、家族、民生委員、介護相談員、地域包括支援センターの方々に参加していただき、管理者、各ユニット職員がサービス内容や行事について報告している。参加者より意見を聞き、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、民生委員、老人会長、公民館長、介護相談員、市担当者等の参加を得て開催している。家族には文書で案内するほか電話で出欠確認を行うことで、多くの参加に繋がっている。会議では事業所の活動報告を行い、参加者から意見や感想をもらっている。会議を通して地域住民には、事業所が地域の避難場所として活用できることを伝えており、備蓄品の準備状況や事業所を見学してもらっている。また、民生委員からは近隣の要介護者の相談や情報を得る場合もあり、地域の情報交換の場としても役立っている。</p>	管理者は利用者が潤いのある生活を送れるよう、読書や習字、生け花などの活動を充実させて、サークルのような活動を実践していきたいと考えている。そのため、運営推進会議や地域との繋がりなどを活用して、より多くの地域住民やボランティアの方などに協力してもらい、活動が実現できることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<p>(自己評価) 主に管理者が行っている。毎月2名の介護相談員が来所してくださり、利用者や職員とお茶を飲みながら、和気あいあいと談笑している。</p> <p>(外部評価) 市職員が運営推進会議に参加しており、事業所の様子を知ってもらっている。分からないことがある場合は、管理者が市窓口に出向いたり電話で気軽に相談する関係を築いている。毎月介護相談員2名の訪問があり、利用者の話しをよく聞いてくれ喜ばれている。また、年2～3回、介護相談員の連絡会があり、管理者は参加協力をしている。</p>	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<p>(自己評価) 身体拘束は行っていない。ユニット会や申し送りにおいて身体拘束が行われていないか点検している。若手職員や新人職員に対して、ユニット会等で勉強会を行っている。</p> <p>(外部評価) 日頃から主任と副主任を中心に身体拘束をしないケアの意識を高く持っており、身体拘束等の勉強会を開催するほかに、ユニット内での職員への指導や教育に力を入れている。拘束の恐れなどの課題がある場合はユニット会で話し合って意見を出し合い、職員間で気になることは注意し合っている。職員は利用者が自由な生活が送れるよう、安全面にも配慮しながら見守りを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 施設内での勉強会や外部の研修に参加している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修会に参加している。必要な方への対応は管理者が行っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に管理者が説明し、承諾して頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や家族会、お花見やクリスマス会、面会の時に要望を聞き、参考にさせて頂いたり、改善に努めている。	
			(外部評価) 前回は行った外部評価の「期待したい内容」から、家族からより意見を引き出せるようアンケート調査を実施している。アンケートに「利用者に希望を聞いてほしい」という意見が出され、管理者は利用者の意向に沿う支援の大切さを再認識し、サービスの向上に繋げている。クリスマス会や敬老会、バイキング形式での食事会を開催する場合には家族にも声をかけ、事業所での利用者の生活の様子を知ってもらえるよう努めている。また、家族から訪問時に意見を聞くように努め、利用者からは日々の生活の中で意見を聞き、上層部にも意向が伝わるよう努め対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月、ユニット会や勉強会を設けている。また、個別に面接の機会を設け、意見や要望を聞いている。	
			(外部評価) 管理者は年2回職員との個別面談を実施しており、職員が立てた目標の達成状況などの確認をしている。また、管理者は職員の意見を聞くよう努めており、相談しやすい関係を築きたいと考え、何かあった場合は声をかけるよう伝えている。職員から出された意見は、調整をしながら対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 管理者を通して職員に意見を聞き、職場環境や条件の整備に努めている。年1回総会が開催され、資格取得者の表彰や勤続表彰をし奨励金をもらえ励みになっている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の情報を提供し、研修会への参加を呼びかけている。受講者は研修報告書を提出し、勉強会で発表している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域のグループホーム連絡協議会や地域密着型サービス協会主催の研修会、主任・副主任会に参加し、情報収集したり、意見交換をし、良いところを取り入れるようにしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 同一施設内のデイサービスを利用して頂くなどし、職員とも慣れ親しんでもらえるようにしている。また、事前に面接して情報収集を得ている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所申込時より不安に思っていること、困っていることなどの相談を受け、個々に応じた対応に努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人や家族さんの思いや状況を確認し、改善に向けた支援の提供や相談、援助を繰り返しおこない、信頼関係を築いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、平素から利用者に教えてもらう場面が多く持てるように工夫している。特に輝いて暮らしていた時の事を話題に持ち出し、生き生きと話してもらっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員は家族との思い出に寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や気付きの情報を共有している。行事などの写真を見て頂いてきっかけを作り、話す機会を設けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が家族から孤立した状態にならないよう、ホームで行う行事等に出来るだけ家族に参加していただけるようにしている。 (外部評価) 地元出身の利用者が多く、近隣住民や友人の訪問があり、職員は快く対応をしている。教会の礼拝やお墓参り、外食など、家族や近隣住民、ボランティア等の協力を得ながら馴染みの場所に出かけられるよう支援している。日頃から会話を楽しむ利用者同士の馴染みの関係もできてきている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事やお茶の時は職員も一緒にテーブルを囲み、利用者同士の関係が円滑になるように働きかけている。利用者同士で洗濯を干したり、たたんだりするなかで、お互いに気遣う場面も見られる。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も、ご家族から相談を受けることもあり、相談や支援に努めている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の意志に添えるように職員で話しあったり日々の中で利用者の思いをくみ取るように努めている。些細なことも見逃さないようにし職員間で情報を共有できるように記録や申し送りを行っている。 (外部評価) 日々の会話の中で、利用者の思いや意向を把握するよう努めており、職員は意向を反映して利用者が選択できるような声かけをしている。思いの把握が困難な利用者には、家族から情報を得て職員間で話し合いながら支援しており、利用者の表情を見て再度検討し、より良いサービスを提供している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者自身の話や家族の面会時に知り得た情報を職員同士で共有できるように生活歴や状態像記入用紙に書き込んでいる。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 生活習慣や心理面での視点やできる事、できない事に注意し、全体の把握に努めている。できる事に重点を置き、ケアを行うように努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 日々の中で利用者の要望などを把握し、面会時家族の要望を聞き、3ヶ月おきにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。	
			(外部評価) 利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。月1回、利用者毎の担当職員は介護計画を振り返りながら意見交換を行い、管理者と計画作成担当者に確認し、必要に応じて介護計画の見直しをしている。また、職員は利用者自身ができることや可能性に着目し、随時計画に追加している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別ファイルを用意して体調不良、精神面等の変化を日々記録し、職員全員が目を通して。毎月、カンファレンスを開催し、記録を活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 通所介護事業を行なっている。本人や家族の要望に沿ったサービスを行っている。習字教室・生花教室等が定期的に行われており、参加することで日常生活に変化がうまれていると思う。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 歌や理容ボランティアの方の訪問が定期的にある。消防機関と協力して年2回避難訓練を実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 定期的な受診には遠隔地以外は状態のわかる職員が同行した りすることで家族と協力しあっている。グループ内の医療法 人との連携が取られているので、早急な対応が可能で適切に 指示がもらえている。 (外部評価) 利用者や家族が希望するかかりつけ医を継続して受診するこ とができる。対応可能な医療機関には職員が受診介助をして おり、家族の協力を得てリハビリや受診をしている利用者も いる。月1回、母体の関連病院から往診があり利用者の健康 管理を行うほか、相談ごとにも対応している。往診や受診の 状況、薬の変更など、家族へ報告し情報を共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 体調が悪い利用者がいたり、異変に気づいた時は看護師に相 談し、指示を仰いでいる。施設の看護師や担当医師と連絡が 取れる体制になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し ている。担当医や病院と連携し情報の交換や退院に向けての 受け入れを行っている。主に管理者が病院や家族と対応を 行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主に管理者が行っている。早い段階から本人、家族、医療機 関の医師と話し合い、意見を聞き、連携をとっている。ま た、体調に変化が見られた時などはすぐに対応していただ けるように医療機関と連携をとっている。 (外部評価) 事業所では終末期の支援を行っていないため、緊急時には救 急搬送する方針であることを入居時に利用者や家族に説明し 同意を得ている。終末期の支援を行うためには、管理者は看 護師の配置と職員のスキルアップ、医療機関や訪問看護等 との連携が必要であると考えており、研修会に積極的に参加し 今後の支援のあり方を模索している。	重度化や終末期の支援を行うためには、職員全員の教 育や理解を深めることが必要となるため、勉強会の実 施や外部研修等へ参加することが望まれる。また、医 療機関との連携が必要不可欠であるため、必要な医療 連携体制の整備を着実に進めていくことを期待した い。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 勉強会を開催し、対応等について勉強している。消防署協力のもと、AEDを用いての救命救急や、応急処置の講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署指導のもと、避難訓練を実施している。消火器の使用方法も体験し、指導していただいている。 (外部評価) 年2回火災を想定した避難訓練のほか、年1回水害を想定した訓練も実施している。運営推進会議への参加者や地域の消防団長にも事業所の状況を伝え、災害時の協力をお願いしている。実際に訓練では利用者全員が事業所の外に避難させ、避難した利用者は地域住民に避難援助を行ってもらう手順で、地域と連携した訓練をしている。地震発生時には、耐震構造のある事業所に利用者は待機する方針であることを、市担当課や家族にも説明している。また、災害時に備え、1週間分の食糧などの備蓄品を用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の個々の状態に合わせた声掛けを心がけている。その都度、言葉かけや対応の仕方を見なおしている。 (外部評価) 職員は利用者が目上の方であることを認識して尊重し、職員自身が利用者だったらどう感じるかを考え、職員会等で話し合いをしている。調査当日は、職員が利用者に丁寧な声かけをする様子が伺えた。着替えや排泄時などの羞恥心に配慮し、職員同士で気になることは注意し合っている。また、利用者個人のファイルは施錠できる棚に保管し、個人情報の保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活では、できる限りご本人の希望を聞くようにしている。判断のできない方は表情からくみ取り、対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ユニット会で利用者一人ひとりのケアについて話し合い、一人ひとりと向き合える様にその人のペースに合わせた個別ケアに取り組んでいる。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 更衣時に利用者の方と一緒に衣類を選び、着用していただく。 外出時には着替えを手伝う。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食材の下準備（野菜切り等）や盛り付けをして頂く。終わった食器は各自カゴに入れて頂き、下膳して頂いている。また、定期的におやつ作りを行い、参加して頂いている。	
			(外部評価) 管理者が献立を作成し、職員は産直市等で食材を購入し調理している。食器などの準備をしたり、職員と一緒に食材を切ったりするなど、利用者のできることを手伝いをしてもらっている。誕生日には利用者の好みのもを用意し、手作りケーキをプレゼントして喜ばれている。利用者の使い馴れたお茶碗や箸を使用して、利用者のペースで食べれるよう配慮している。また、食事を楽しむことができるよう、外食をしたりパンの移動販売を購入するなど、利用者を選択できる喜びも取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分摂取量を記入している。入浴後、入眠前の水分補給も行っている。スタミン・イオン飲料水・コーヒー・ミルク等、味の違った物や気温も考慮してとって頂いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、口腔ケアを行っている。義歯の磨き残しがあれば介助している。残歯のある方は歯磨きをつけ磨いて頂く。義歯については、就寝前にはずし、週2回洗浄剤を用いての洗浄をおこなっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの能力や排泄パターンを把握し、職員全員で共有し、立ち上がった際等に声掛けや誘導を行い、日々少しずつでも布パンツを使用できるように努めている。	
			(外部評価) 排泄パターンを記録して職員間で共有し、トイレで排泄できるよう支援している。管理者は、排便状況が利用者の気分や体調の変化などに影響していると考えており、職員にも考察してもらいながらスムーズな排泄が行えるよう、センナ茶を飲んでもらったりヨーグルトを食事に取り入れるなどの対応をしている。また、便秘など続く場合は、医師と相談をして緩下剤の調整や対応をしながら快適に排便できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄チェック表を用いて職員が把握している。緩下剤を服用している方もいる。薬に頼らず、自然に排便できるようにセンナ茶たヨーグルト、バナナ等を摂取して頂く。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者個々に応じた誘い方をしている。湯の温度も個々の好みに合わせている。	
			(外部評価) 2日に1回を基本として入浴することができる。利用者の希望に応じて、毎日入浴することもできる。職員は、利用者気持ちよく入浴してもらえるよう、声かけを工夫する等一人ひとりに合わせた支援をしている。入浴が苦手な利用者には、職員の交代や時間を代えて声かけをしたり、職員と一緒に脱衣して一緒に入浴したりしている。また、浴槽をまたぐことができなくなった利用者には、家族と相談のうえシャワー浴を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はソファや和室、リビングにてくつろげるようにしている。居室にて短時間休んで頂いている方もいる。(頻回に訪室し、様子観察している)就寝前に温かい飲み物を勧めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬表を一冊のファイルにまとめている。服薬時、本人に手渡したり、口に入れるなどし、きちんと服用できているかどうか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食材切り、洗濯物を干したり、たたんだりできる事をしていただいている。季節により行事を楽しんでいただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎朝天気の良い時には、スタッフ付き添いでホームの庭に散歩に出掛け、気分転換を図っている。季節の果物狩りや地域の七夕祭り、運動会などにも、体調を考慮しながら出掛けている。 (外部評価) 天気の良い日には玄関先で外気浴をしたり散歩に出かけている。併設のデイサービスから外出先などの情報をもらったり、日々の会話の中で聞いた懐かしい場所などへ出かけるよう支援している。また、ユニット毎に年間の外出計画を立て、花見や足湯、喫茶店などに外出できるよう支援しており、利用者は楽しみにしている。調査当日は、ユニット毎に玄関先に利用者が出て、歌を歌ったり飼い犬と一緒に散歩に行く様子が見られた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 施設内で現金を使うことはほとんどない。個別に立替をしている。個々の金銭管理能力に応じて援助している。買い物に行く時は職員が見守り、援助している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話がかかってきた場合は取次を行っている。手紙が書ける方には希望があれば、便箋やハガキを準備している。宛名書きは職員が行ったり、確認をしている。年賀状を出す支援も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者手作りによる季節感あふれる壁画や行事ごとに撮影した写真を貼ったり、目につくところには草花を生けている。和室があり、家庭的な雰囲気を楽しめるようにしている。西陽が強いので、気をつけている。</p> <p>(外部評価) リビングの壁面には季節の作品を飾り、毎月貼り換えて事業所内においても季節が分かるようにしている。また、ユニット毎に花や似顔絵を飾ったりする工夫をしている。和室もあり、利用者が自由にくつろぐことができるよう整理整頓されている。清掃は職員が行っているが、利用者と一緒に掃除機をかけることもある。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 廊下にソファを置き、思い思いに過ごしていただけるようにしている。和室の端に腰をかけ体操をしたり、レクリエーションを行っている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自宅で使用していたタンスを持参している方もいる。壁にはコルクボードを設置し、カレンダーや写真を貼り心が和む空間を作るようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室はベッドとエアコンが備え付けのほか、自宅から使い馴れたものを持ち込むことができ、タンスやソファ、いす、観葉植物など思い思いのものを持ち込んでいる。居室には家族の大きく引き伸ばした写真やプレゼントの絵などが飾られており、利用者や家族の思いが伝わる落ち着いた空間となっている。また、入口には手づくりの表札が掛けられている。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) トイレを『便所』と表示してわかりやすいようにしている。本人や家族に了解を得て、居室に名札を貼り、戸惑いを減らしている。トイレ、廊下には手すりがある。</p>	